

しば みや とりで あと
芝 宮 砦 跡

—長野県小県郡丸子町芝宮砦跡発掘調査報告書—

1997.3

丸子町教育委員会

序

芝宮砦は、丸子町塩川地区の水田地帯の東端に位置し、天正13年（1585）に徳川氏が真田氏を攻めた第一次上田合戦の際に徳川氏によって造られた砦であるといわれています。昭和63年（1988）、県営圃場整備事業に伴い砦外部の西側に隣接する水田において発掘調査が行われ、空堀や土塁の存在が明らかとなりました。

このたび砦内部の水田に個人住宅が建設されることにより同砦跡の保護が必要となり、関係機関と協議した結果、発掘調査をして記録に残すことになりました。

発掘調査は事業主体である横山信男氏より委託を受けた丸子町教育委員会が新たに芝宮砦発掘調査団を組織し、実施することになりました。

発掘調査の結果、中世末期の内耳鍋や陶器、あるいは土壙などが発見されました。また砦の範囲や築造時期が明らかになるなど、丸子町の歴史解明のための貴重な成果を上げることができました。発掘調査は梅雨時から真夏にかけて行われ、調査にあられた調査員及び作業員の皆様方の苦勞には、並々ならないものがありました。心から感謝申し上げます。

また調査にあたっては、坂井区、南方区、長野県教育委員会の各機関から御指導・御協力をいただきました。発掘調査報告書を刊行するにあたり、厚くお礼を申し上げます。

平成9年3月

丸子町教育委員会教育長 矢 島 泰 明

例 言

- 1 本書は、個人住宅の建設に先立ち実施された芝宮砦跡の発掘調査報告書である。
- 2 本書の作成は下記の者により分担した。
出土遺物の整理（工藤府子）、遺物実測図の作成（滝沢敬一）、挿図・図版の作成（滝沢敬一）、本文の執筆（滝沢敬一）、報告書の編集（綿田弘実、滝沢敬一）
- 3 挿図の縮尺はそれぞれに明示してある。
- 4 写真の図版の縮尺は、おおむね1：2である。
- 5 第2図の網点スクリーン・トーンは実際に発掘した範囲と遺跡範囲を表し、第3図の網点は、実際に発掘したグリッドを表す。また、第9図の遺物実測図断面の網点は磁器を表す。
- 6 本調査に関する資料は、丸子町教育委員会がすべて保管している。
- 7 発掘調査団の構成

[調査団]

参 与	五十嵐幹雄・小林重義・関孝一・塩入秀敏・竹内一徳
技 術 参 与	綿田弘実
団 長	尾鷲修一
調 査 主 任	滝沢敬一
特別調査員	千葉剛成・賛田 明
調 査 員	井上良子・川村寿一・北沢けさ子・清水啓道・塚越安廣・都築誠・宮沢博家
作 業 員	大井義浩・北沢淑子・小相沢はる・桜井洋子・笹沢芳子・杉浦利代・鷹野歌子・中村徳八郎・成沢しげ子・西沢和良子・藤森たか江・藤森千穂子・堀之内梅子・宮坂隆子・武捨栄徳・横山友行・吉池善一

[事務局]

事 務 局 長	三好健三
事 務 局 員	丸山持賀子・工藤府子

目 次

序

例言

目次

第1章 発掘調査の経過	1
1 調査に至るまでの経過	1
2 発掘調査日誌	1
第2章 遺 跡	4
1 遺跡の立地	4
2 発掘調査区と層序	4
3 歴史的環境と周辺の遺跡	8
第3章 遺 構	11
1 土壌	11
2 ピット	12
3 列石	12
第4章 遺 物	14
1 焼物	14
2 石製品	14
3 石器	14
第5章 むすび	16

挿 図 目 次

第1図 芝宮砦跡周辺の地形図	第6図 土壌実測図
第2図 発掘調査区全体図	第7図 ピット群実測図
第3図 グリッド設定図及び遺構分布図	第8図 列石実測図
第4図 トレンチ土層図	第9図 遺物実測図
第5図 芝宮砦跡周辺の遺跡分布図	

図 版 目 次

PL 1 1. 遺跡全景(西から)	2. 発掘調査区全景	PL 8 1. 4号土壌	2. 5号土壌
PL 2 1. トレンチ堀削	2. 航空写真撮影	PL 9 1. ピット群	2. 24号ピット
PL 3 1. 試堀作業	2. 発掘作業	PL10 1. 列石	2. 遺物出土状態
PL 4 1. 1号トレンチ	2. 同土層断面	PL11 1. 内耳鍋	2. 内耳鍋
PL 5 1. 2号トレンチ	2. 同土層断面	PL12 1. 内耳鍋	2. 内耳鍋
PL 6 1. 1号土壌礫出土状態	2. 1号土壌	PL13 1. 土器皿	2. 陶磁器
PL 7 1. 2号土壌	2. 3号土壌	PL14 1. 石鉢	2. 磨石・凹石・砥石

第1章 発掘調査の経過

1 調査に至るまでの経過

長野県小県郡丸子町大字塩川字芝宮地籍は、千曲川の河岸段丘の第Ⅱ面東端に位置し、東側は塩川沢川の深い峡谷で、西側は条里水田が広がる。芝宮砦は芝宮地籍の東端にあり、東側は比高差13mの崖で塩川沢川に接している。稲荷神社周辺の70×40m程度の範囲の単郭の砦であり、土塁の痕跡も認められた。昭和63年、県営圃場整備事業に伴い、砦西側の水田を発掘調査した結果、幅2.2～2.5m、深さ20cmの空堀を確認した。

平成7年11月、芝宮砦内の水田に丸子町塩川坂井地区の横山信男氏の住宅が建設されることとなり、事業主体の横山氏と教育委員会の2者により工事区域内の埋蔵文化財の保護協議がなされた。その結果、芝宮砦について事前に600㎡以上を発掘調査して記録保存を図ることとなった。調査費は丸子町教育委員会が国・県の補助金を受けて全額負担し、調査は丸子町教育委員会が発掘調査団を組織して実施することとなった。

発掘調査は事業主体の工事計画や調査員・作業員の参集できる時期を考慮し、平成8年7月上旬から下旬にかけて実施した。また、6月上旬に文化財保護法第98条の2第1項の規定による通知を行った。

2 発掘調査日誌

6月26日（水）晴れ 午後7時より丸子町文化会館において発掘調査団会議を行った。発掘調査団結成。

7月1日（月）晴れ 午前中、芝宮砦に重機を投入し、トレンチを掘削して遺跡の状態を確認した。午後、土層確認のためトレンチ内の清掃を行った。[調査員2名参加]

7月2日（火）晴れ 重機による表土はぎと、1号トレンチの土層断面の実測及び写真撮影を行った。[調査員2名参加]

7月3日（水）晴れ グリッド杭打ちと、2号トレンチの土層断面の実測及び写真撮影を行った。[調査員2名参加]

7月4日（木）晴れ 午前中、グリッド杭打ちと、発掘機材の搬入を行った。[調査員

4名参加]

7月6日（土）晴れ 本日より発掘調査を開始する。作業開始に先立って結団式が行われ、矢島教育長のあいさつがあった。1号トレンチのベルトはずしと、A、C、D区の遺構検出作業を行った。[調査員5名、作業員16名参加]

7月8日（月）雨 朝からの雨のため調査を中止した。

7月9日（火）雨 雨のため調査を中止した。

7月10日（木）曇り後雨 2日間の雨のため6日に遺構確認を行った地区の発掘ができないため、調査区北側のグリッドをあけて遺構確認を行った。10時頃から雨が強くなって

きたため調査を中止した。[調査員 3 名、作業員16名参加]

7月11日（木）曇り 昨日の雨のため調査区がぬかって入れないため、調査を中止した。

7月12日（金）晴れ 調査区北側のグリッドの遺構確認を行った。[調査員 2 名、作業員15名参加]

7月13日（土）晴れ 調査区の遺構確認を行った。[調査員 3 名、作業員14名参加]

7月15日（月）晴れ 調査区西側の遺構確認を行った。午後、調査区の遺構確認を終了した。[調査員 4 名、作業員15名]

7月16日（火）晴れ 土壌、ピットの掘り下げと測量を行った。[調査員 2 名参加]

7月17日（水）晴れ 遺構の掘り下げと測

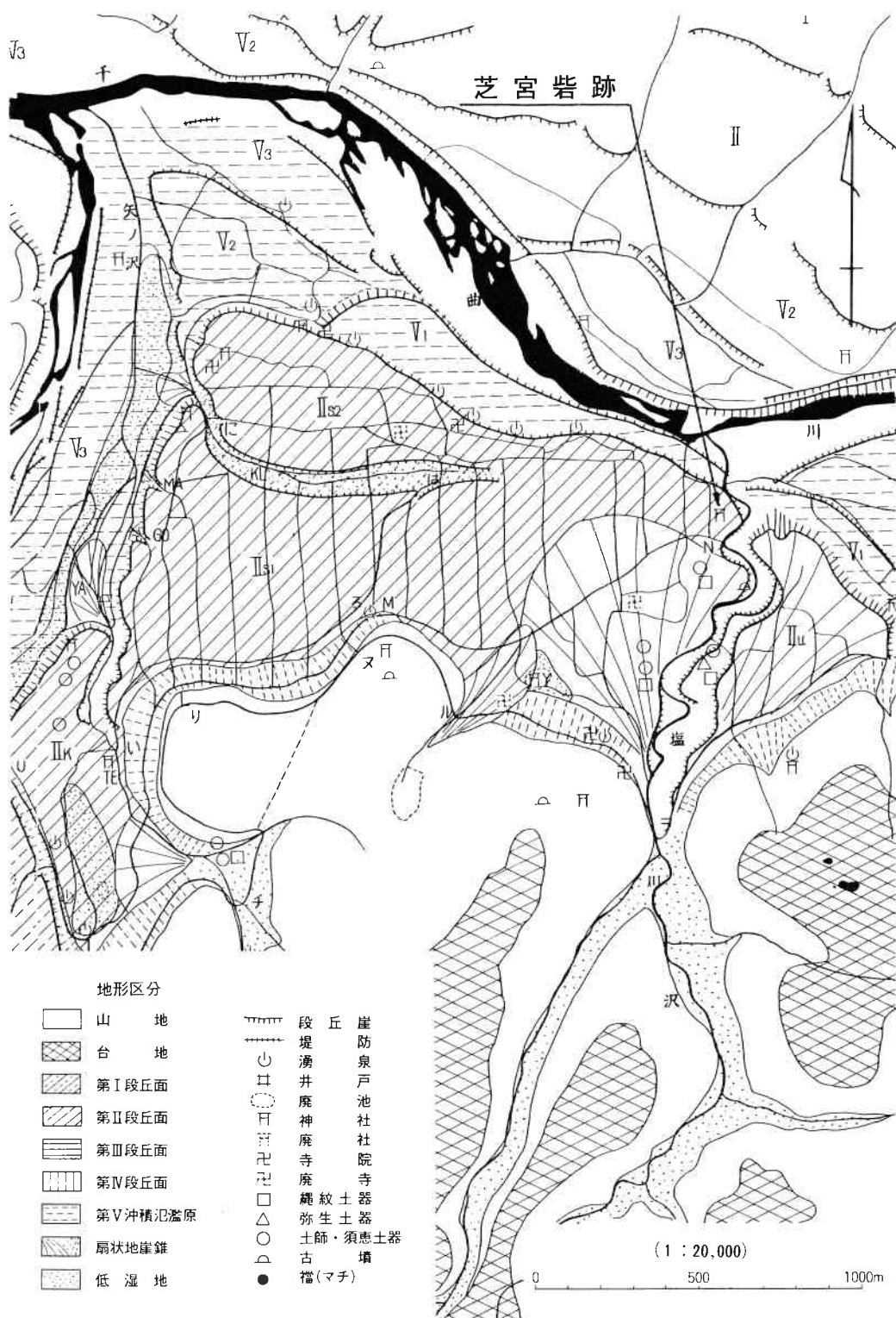
量、及び写真撮影を行った。[調査員 3 名参加]

7月18日（木）晴れ 土壌、ピットの測量と写真撮影を行った。[調査員 3 名参加]

7月19日（金）晴れ後雨 土壌、ピットの測量及び遺跡の全体測量を行った。[調査員 3 名参加]

7月20日（土）晴れ 遺構の測量と写真撮影を行った。[調査員 3 名参加]

7月22日（月）晴れ 午前中、調査区の清掃とラジコンヘリコプターによる遺跡の航空撮影を行った。午後、遺構の測量と写真撮影を行い、発掘機材を撤収して調査を終了した。[調査員 3 名参加]



第1図 芝宮砦跡周辺の地形図 (『丸子町地域開発史』より抜粋)

第2章 遺 跡

1 遺跡の立地（第1図）

芝宮砦は、千曲川の形成した第Ⅱ段丘面の東端に所在し、東側は塩川沢川の深い峡谷に接している。塩川沢川は千曲川の形成した第Ⅱ段丘面の塩川面（塩川沢川左岸）・丑田原面（同・右岸）上に塩川扇状地を作り出し、幅100mに及ぶ大峡谷を作り、峡谷内を蛇行しながら千曲川に至っている。遺跡付近は、塩川沢川の蛇行により侵食された第Ⅱ段丘面が舌状に張り出ししており、平面形は三角形を呈する。遺跡の東・南・北方は比高差10m以上の断崖で、西方は広大な条里水田が広がっている。このため砦の防衛上は、条里水田に接する西方の70m程の範囲を防御するだけでよく、古くから要害の地として重視されていたと考えられる。

2 発掘調査区と層序（第2・3・4図）

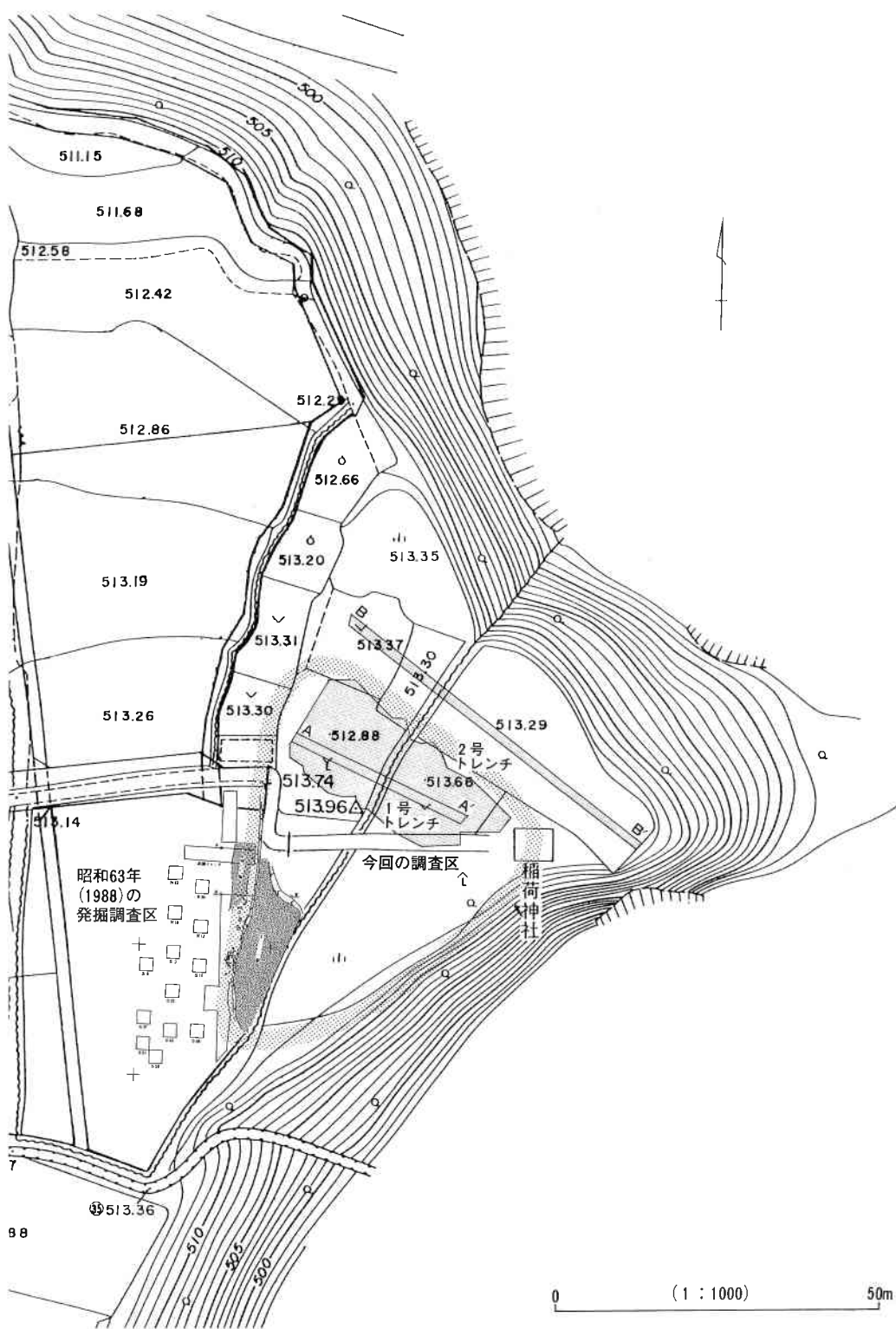
本調査に入る前に個人住宅が建設される水田（2号トレンチ）と農地として利用される畑（1号トレンチ）に試掘トレンチを掘削して遺跡の状態を確認した。その結果、水田からは遺構・遺物とも確認されなかったのに対して畑からは中世の内耳鍋の破片がかたまって出土した。このため調査区は農地として利用される畑に東西36m、南北26mの範囲で設定し、三角点（標高513.96m）から磁北を通る軸とそれに直交する軸を基準に1辺20mの大グリッド4区画を設定した。大グリッドの呼称は、西から東へA～B、C～Dとし、さらにこの中を2m四方の小グリッド100区画に区分し、西から東へ1～100の小グリッド番号をつけた。ただし、試掘調査の状況からA・B・D区の一部は排土場所とした。

調査はまず全地区にわたって遺構の確認を行った。遺物は内耳鍋の小破片がほぼ調査区全域から出土したが、遺構はA区に集中し、他は後世の深耕による攪乱を受けていたため、A区に調査の主力を置くこととした。この結果、実際に掘り下げを行った面積は562㎡となった。

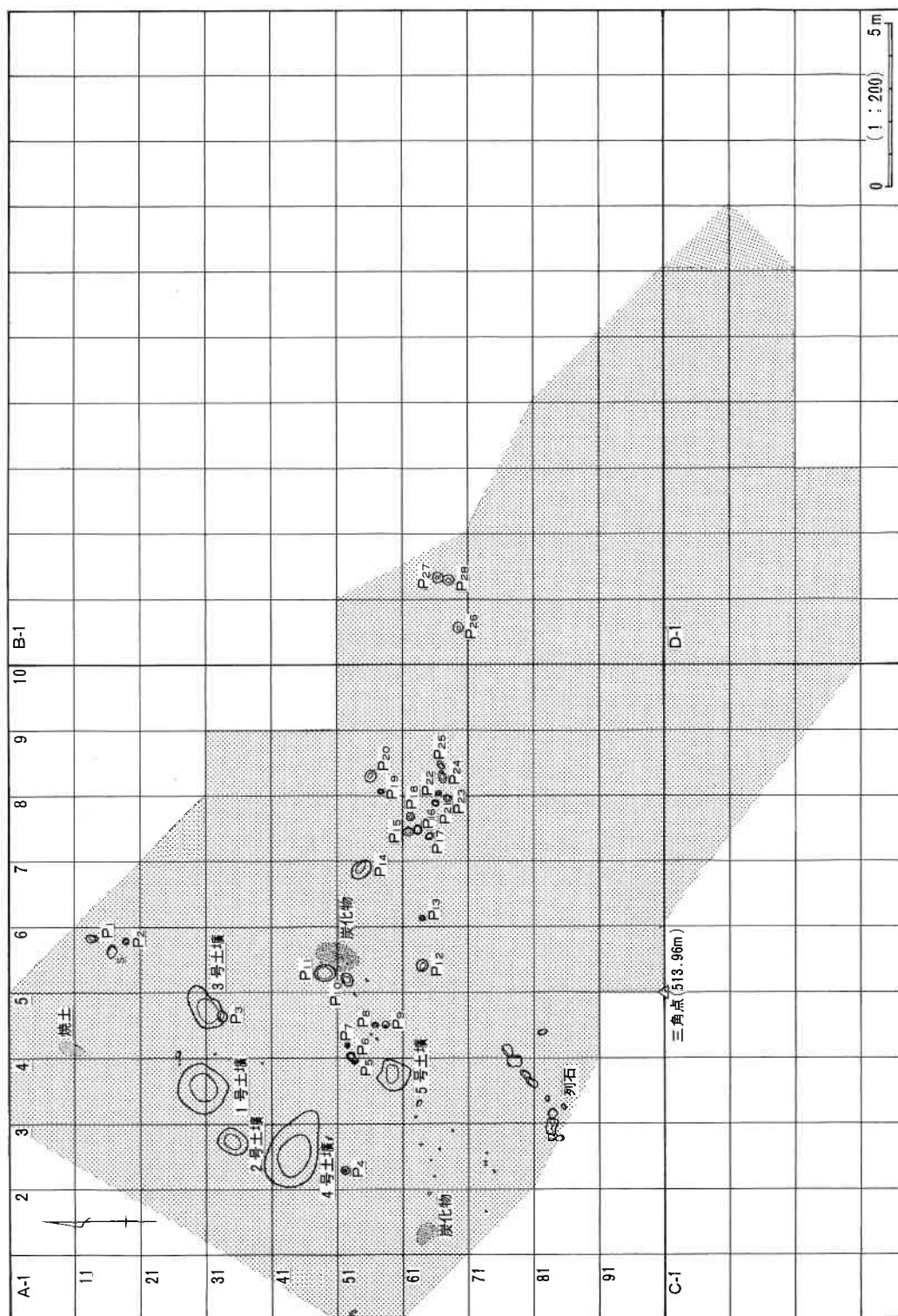
なお、遺物の出土地点等については、例えば「A10」のように、「大グリッド名・小グリッド番号」と注記することにし、遺物は遺構に伴うものの以外は小グリッド単位で収納し、遺構等の測量は平板測量と遣り方測量によった。また、ベンチマークは三角点（標高513.96m）を用いた。

全調査区のうち土層断面を記録したのは、1号トレンチ北壁と2号トレンチ北壁の2箇所である。1号トレンチは遺跡中央に設定したトレンチで、長さは29mである。Ⅰ層は耕作土で、灰茶褐色を呈する。堆積状況は、砦の入口付近では厚く、稻荷神社へ近づくにしたがって薄くなる。Ⅱ層は遺物包含層で、茶褐色を呈し、粘性は少ない。Ⅲ層は黄白色粘土層で、中世の地山面である。

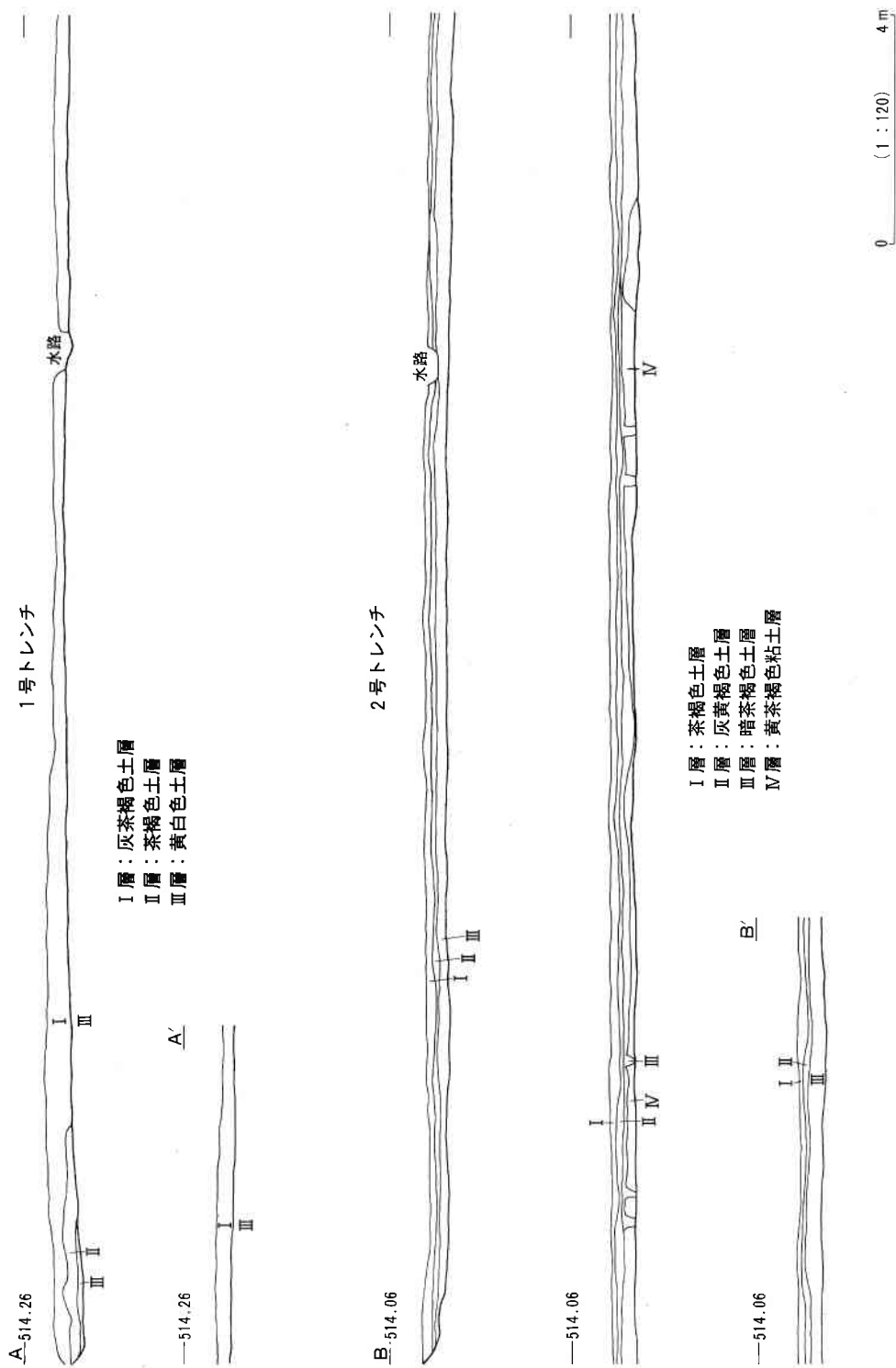
2号トレンチは、遺跡北側の水田に設定したトレンチで、長さは56mである。Ⅰ層は水田の耕作土で、Ⅱ層は溶脱層である。Ⅲ層は暗茶褐色土層で、粘性に富む。Ⅳ層は黄茶褐色粘土層である。全体に水田耕作による攪乱が見られた。



第2図 発掘調査区全体図



第3図 グリッド設定図及び遺構分布図



第4図 トレンチ土層図

3 歴史的環境と周辺の遺跡（第5図）

芝宮遺跡に所在する塩川地区は、丸子町の北端に当たり、北方は千曲川を境にして東部町と接し、東方は北御牧村と接している。これまでに塩川地区で行われた考古学的な調査には、1966年と1986年の井戸下遺跡、1983年の稲羽北遺跡、1984年の市の町遺跡と塩川条里的遺構、1985年古免南遺跡と太鼓岩遺跡、1988年の古免遺跡と芝宮遺跡の各発掘調査がある。

旧石器時代 現在までのところ塩川地区では旧石器時代の遺跡は発見されてない。丸子町全体を見ても、腰越地区の渕ノ上遺跡から旧石器時代末期の神子柴型尖頭器が3点出土しているのみである。

縄文時代 早期で土器の出土が知られるのは市の町（4）のみである。楕円押型文土器1点が出土している。前期では井戸下（2）から土器が出土している。十三菩提式土器の出土が知られている。中期で土器の出土が確認されているのは6遺跡を数える。井戸下・市の町・松葉（9）・東畑（10）・道祖神（11）・古免（12）から土器が出土しているが、特に井戸下遺跡からは五領ヶ台式土器が発見されている。後期は井戸下遺跡のみで称名寺式や堀之内1式の出土が知られている。なお晩期の土器の出土している遺跡は今のところ確認されていない。

弥生時代 土器の出土が知られているのは後期の4遺跡である。井戸下・稲羽北（5）・東畑・古免遺跡がある。いずれも少量の箱清水式である。

古墳時代 土器の出土が知られるのは3遺跡である。市の町遺跡からは土壙2基と前・中期の土器が検出されている。前期の土壙からは赤色塗彩された有段口縁壺が出土しており、注目される。後期では井戸下遺跡から住居址が13棟と土壙が検出されている。遺物は多数出土しており、祭祀をうかがわせる遺物の出土も見られた。藤森塚古墳は、塩川地区唯一の古墳である。塩川沢の左岸段丘の凹地にあり、塩川沢に面した東側だけ視界が開けた特異な立地である。直径13m、高さ2mの円墳である。副葬品は発見されていない。

古代 土器の出土が知られるのは13遺跡である。このうち井戸下・稲羽北・古免・太鼓岩の4遺跡から竪穴住居址が検出され、市の町遺跡からは土壙が発見されている。その他の羽毛田（3）・稲羽西（6）・松葉・道祖神・古免南（13）・丑田原（14）・大岩（16）遺跡は包蔵地である。古代の塩川地籍は水量の乏しさから牧の存在が指摘されており、牧に関係する遺跡の存在が推測される。

中世 土器の出土が知られるのは6遺跡である。このうち市の町遺跡からは竪穴住居址3棟、堀立柱建物跡3棟、溝2本、土壙、ピット群などが検出されている。井戸下・稲羽北・松葉遺跡からは、かわらけなどの土器片が出土している。また、芝宮砦の西方約1kmの陣場山山頂に陣場砦（18）があり、天正13年（1585）に徳川氏が陣をおいたといわれている。



第5図 芝宮砦跡周辺の遺跡分布図

第1表 芝宮砦跡周辺の遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	立地	遺構・遺物	備考
1	芝宮砦跡	塩川・芝宮	段丘	(中)70×40m、単郭、溝1、土塁1 (～安土桃山、徳川氏)内耳鍋、搗臼	昭63年・今回発掘
2	井戸下遺跡	〃・井戸下、 菅町畑、坂下、 砂原	〃	(縄)十三菩提式、五領ヶ台式、勝坂式、加曾利E Ⅲ・Ⅳ式、称名寺式、堀之内1式、打石斧 (弥)箱清水式 (古)後期竪穴住居13、土塋 後期土師器、須恵器、土製丸玉、砥石、滑石 製紡錘車、刀子、鹿角 (平)竪穴住居2 土師器、須恵器 (中・近)土師器系土器、陶器	昭41・61年発掘
3	羽毛田 〃	〃・羽毛田	〃	(縄)石鏃 (平)土師器、須恵器	
4	市の町 〃	〃・市の町	〃	(縄)押型文・勝坂式・加曾利EⅢ式 石鏃、スクレーパー、打石斧 (古)土塋2 前・中期土師器 (奈・平)土塋 土師器、須恵器 (中)住居3、掘立柱建物3、土塋、ピット群、 溝(砦跡、～戦国、真田氏) 白塗系陶器、古瀬戸、土師器系土器、須恵器 系陶器、白土、砥石、刀子、銭貨、漆器 (近)施釉陶器、焼締陶器、磁器	昭59年発掘
5	稲羽北 〃	〃・稲羽	〃	(縄)石鏃、打石斧 (弥)箱清水式 (奈・平)竪穴住居5、土塋10、土塋墓2、ピット 群3 土師器、須恵器、灰釉陶器、円面硯、土鈴、 羽口、砥石、石製支脚、銭貨、鉾滓 (中)かわらけ (平)土師器、須恵器 (中)条里区画、水路	昭58年発掘
6	稲羽西 〃	〃・〃	〃		
7	塩川条理的 遺構	〃・籠田、辺 田、北原他	〃		昭51～53・59年 調査消滅
8	藤森塚古墳	〃・〃	〃	(古)円(径13.0m、高2.0m)、葺石、段、横穴 (長7.9m、巾1.5m、高1.8m)	
9	松葉遺跡	〃・松葉、東 畑	〃	(縄)中期土器、石鏃、磨石斧、石錘、石匙 (平)土師器、須恵器 (中)内耳鍋	
10	東畑 〃	〃・東畑	〃	(縄)加曾利EⅢ・Ⅳ式、堀之内2式、安行Ⅲb 式?、石棒 (弥)箱清水式?	
11	道祖神 〃	〃・道祖神	〃	(縄)中期土器 (平)土師器、須恵器	
12	古免 〃	〃・古免	〃	(縄)中期中葉土器、加曾利EⅢ・Ⅳ式、唐草文 系、石鏃 (弥)箱清水式 (平)竪穴住居1、ピット群1、ピット6、土塋2 土師器、須恵器、灰釉陶器、土錘、刀子 (近)陶器	昭63年発掘
13	古免南 〃	〃・古免	〃	(平)土塋1、ピット群1 土師器、須恵器	昭60年発掘
14	丑田原 〃	〃・丑田原	〃	(縄)土器 (平)土師器	
15	太鼓岩 〃	〃・太鼓岩	〃	(平)竪穴住居、土塋1 土師器、須恵器、灰釉陶器	昭60年発掘
16	大岩 〃	〃・大岩	〃	(縄)石鏃 (平)土師器、須恵器、灰釉陶器	
17	白山沢 〃	〃・白山沢	〃	(縄)土器、石鏃 (平)土師器、須恵器、灰釉陶器	
18	陣場砦跡	〃・陣場	山頂	(中)40×25m、単郭(安土桃山、徳川氏)	

第3章 遺構

遺構の概観

検出された遺構は、土壇5基、ピット28基、列石1である。土壇はA24～54グリッドにかけて円形に分布する傾向がみられ、ピットはA68・69グリッドに集中する。遺構は調査区の北側に集中し、南側は検出されていない。恐らく南側は後世の攪乱により遺構が削平されたものと思われる。

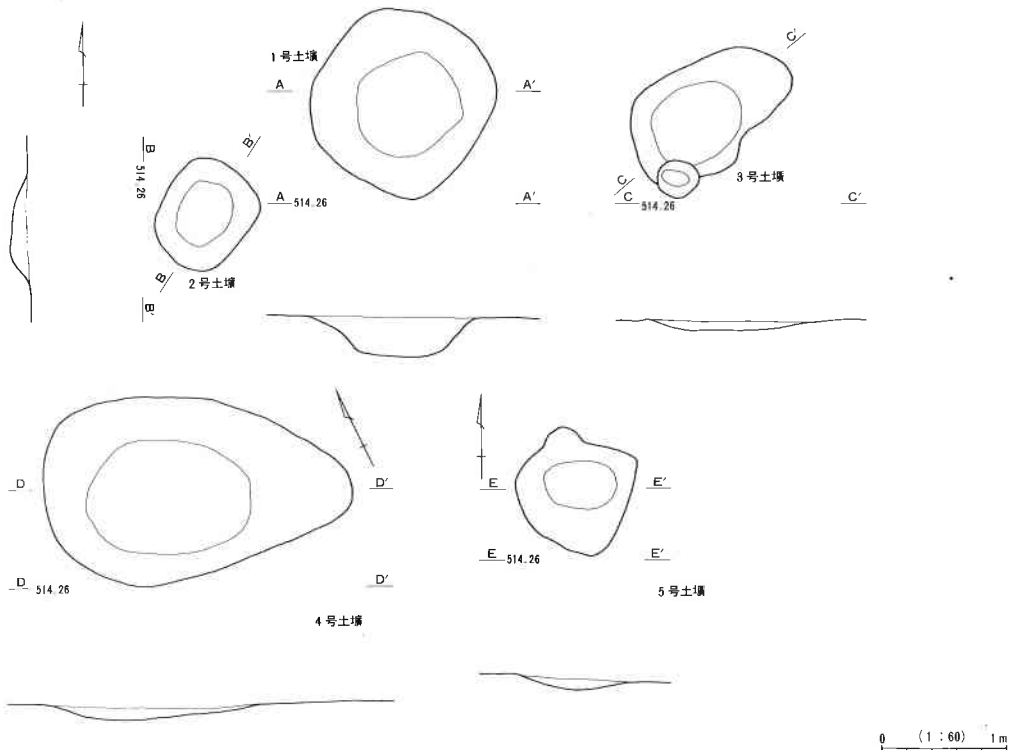
1 土壇

1号土壇（第6図、PL6）

A24・34グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出された。直径1.5mの円形を呈し、深さ30cmを測る。埋土は灰茶褐色土の単層で、11個の大礫を含む。西壁はやや急に立ち上がり、ほかは緩やかである。北壁の壁面から内耳鍋の破片が12点出土している。

2号土壇（第6図、PL7）

A33グリッドに位置する。北東―南西に長軸をとる86×71cmの楕円形を呈し、深さ15cmを測



第6図 土壇実測図

る。埋土は灰茶褐色の単層で、Ⅲ層上面で検出された。北東壁はやや急に立ち上がり、ほかは緩やかである。埋土から内耳鍋の破片が2点出土している。

3号土壌 (第6図、PL7)

A24・25グリッドに位置する。北東-南西に長軸をとる1.4×0.9mの楕円形を呈し、深さ9cmを測る。埋土は灰茶褐色土の単層で、Ⅲ層上面で検出された。壁は緩く立ち上がる。南西隅をP3によって切られている。遺物はない。

4号土壌 (第6図、PL8)

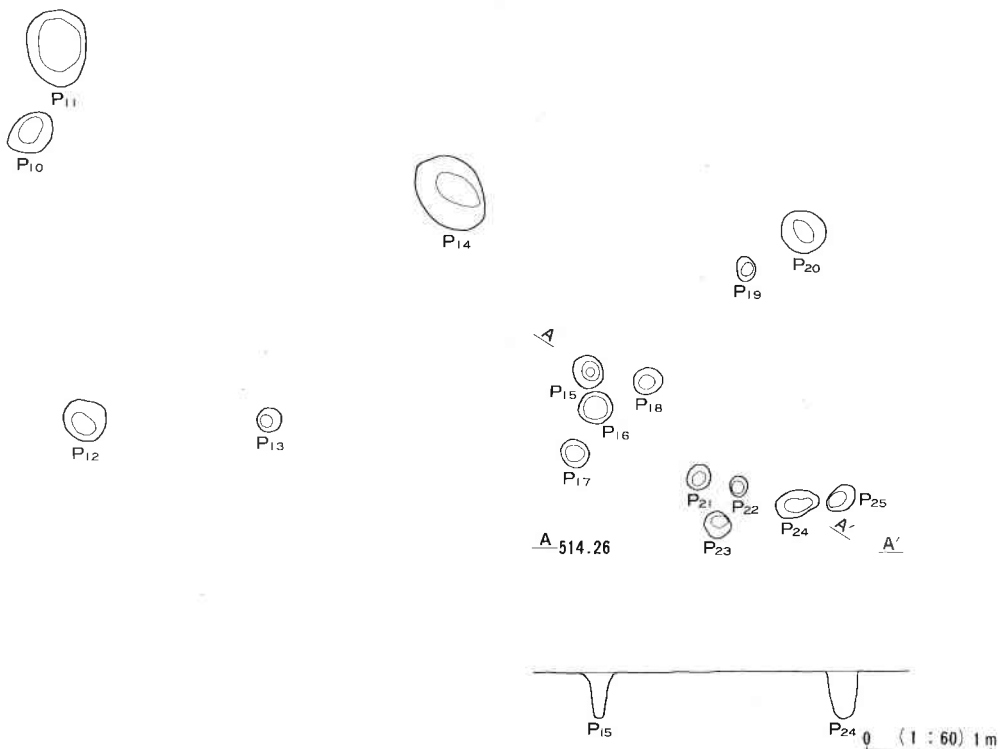
A33・43・44グリッドに位置する。北西-南東に長軸をとる2.5×1.5mの楕円形を呈し、深さ12cmを測る。埋土は灰茶褐色土の単層で、Ⅲ層上面で検出された。壁は緩やかに立ち上がる。遺物はない。

5号土壌 (第6図、PL8)

A53・63に位置する。直径95cmの不整円形を呈し、深さ15cmを測る。埋土は灰茶褐色土の単層で、Ⅲ層上面で検出された。壁は緩やかに立ち上がる。遺物はない。

2 ピット (第7図、PL9)

全部で28基のピットが検出された。P15～P25は比較的せまい範囲に集中するが、規則性は



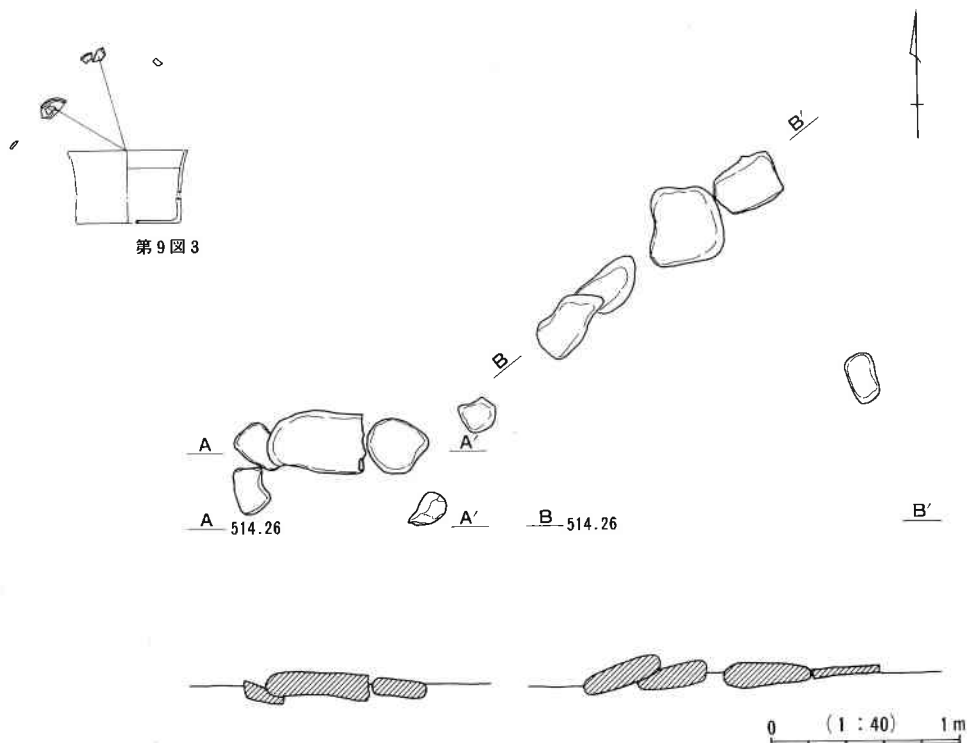
第7図 ピット群実測図

確認されなかった。P15とP24はピットの中でも深さの深いピットである。P15はA68グリッドにある。径25cmの円形を呈し、深さ36cmを測る。埋土は灰茶褐色土の単層で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はない。

P24はA69グリッドにある。東西に長軸をとる35×22cmの楕円形を呈し、深さ40cmを測る。埋土は焼土を含んだ灰茶褐色土の単層で、壁は垂直に立ち上がる。遺物はない。また、P12からは内耳鍋が出土している。

3 列石 (第8図、PL10)

A74・75・83・84グリッドに位置する。列石は10個あり、すべてⅢ層上面に置かれた状態で出土している。用いられた石はほとんどが円礫で、石の一端が隣接する石の端に重なるように置かれている所が2ヵ所見られた。



第8図 列石実測図

第4章 遺物

本調査で出土した遺物の総量は破片の状態で整理用コンテナ2箱程度である。量的には内耳鍋が最も多く、近世陶磁器がそれに次ぐ。なお、遺構に伴うものは少ない。

1 焼物

(1) 内耳鍋 (第9回1～5, PL11・12)

1は内耳鍋の口辺部である。口縁は自然に立ち上がる。口辺部内面に工具によって横方向のナデを行い、1周する凹凸の調整痕を明瞭に残す。外面は口辺部を丁寧に回転ナデしており、ススが付着している。時期的には、口縁の外反がほとんどないことから16世紀代と考えられる。2と5は内耳鍋の胴下半と底部である。2は体部が直線的に立ち上がる。5と比較して器厚が厚い。外面は底部に回転ナデを行ない、胴部最下半にはタテナデが施されている。5は体部が直線的に立ち上がる。外面は全体にススが付着している。体部最下半は接合のためのタテナデがされている。3は内耳鍋の底部と口辺部である。体部は直線的に立ち上がる。口辺部は全体を外へ強く引き出し、断面がクランク状を呈する。口辺部内側に指による1周の調整が行われるが、調整痕幅は広い。口唇端部は平坦面をもつ。底内面は同心円状にナデが施され、体部はタテナデがされている。4は内耳鍋の口辺部である。体部は直線的に立ち上がり、口辺部は強く「く」状に外反する。口辺部内側に1周の調整を行う。調整幅は広く、口辺部全体を外へ強く引き出し、断面はクランク状になる。口縁部外面に強いヨコナデを3条施している。口唇端部は平坦面をもつ。時期的には3・4とも口辺部断面の形状から16世紀代と考えられる。

(2) 土器皿 (第9図9・10, PL13)

9・10は土器皿である。6点ほどの土器皿が出土しているが、全体の形態のわかる例は少ない。9は底部のみで、全体の形態は不明である。10は口径10.4cmを図る。胎土は混入物が少なく、焼成は良好である。成形・調整はロクロ調整で底部に糸切痕を残している。

(3) 瀬戸・美濃系陶器 (第9図11, PL13)

11は緑がかった灰釉が施された丸皿の底部である。全体の形態は不明であるが、大窯期の所産と思われる。

(4) 近世陶磁器 (第9図7・8・12, PL13)

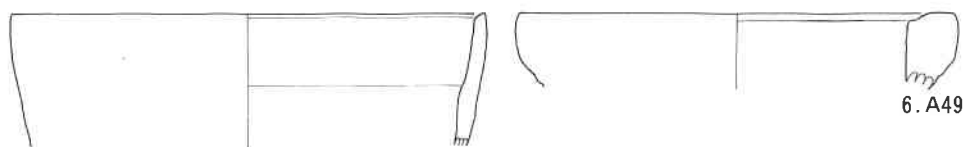
7は在地産の摺鉢である。内・外面とも鉄釉が施される。8は在地産の鉢である。外面に板状工具による叩き目が施されている。12は伊万里の磁器碗である。付高台と体部に染付の顔料により絵付がされている。時代的には17～18世紀代と考えられる。

2 石製品 (第9図6, PL14)

6は石鉢である。口縁部は直立し、口唇端部は平坦面をもつ。体部は厚く、内面は摩耗している。PL14-3は砥石である。偏平・長方形で、磨痕により形状が変形している。石質は緑色凝灰岩である。

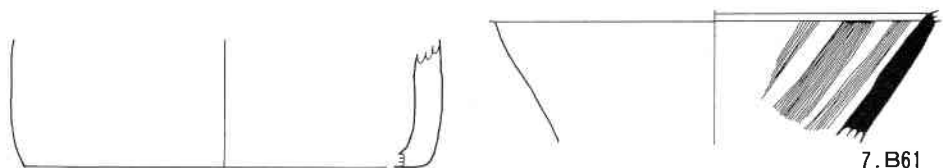
3 石器 (PL14)

1は磨石である。長身に敲打痕をもち、一端が剝落する。側面の2面に磨痕をもち、面取りしたようである。石質は安山岩である。2は凹石である。偏平な楕円形でくばみをもつ。



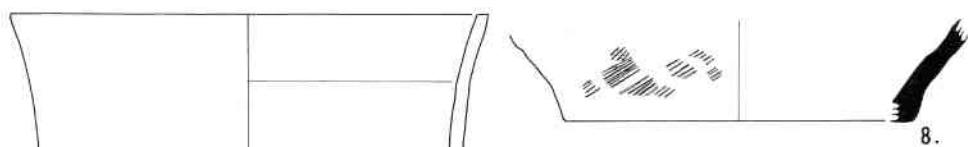
1.A66

6.A49



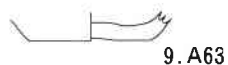
2.A45

7.B61

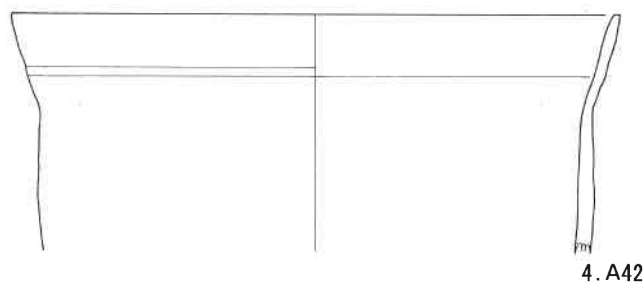


3.A73

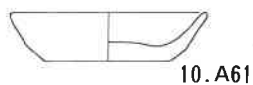
8.



9.A63



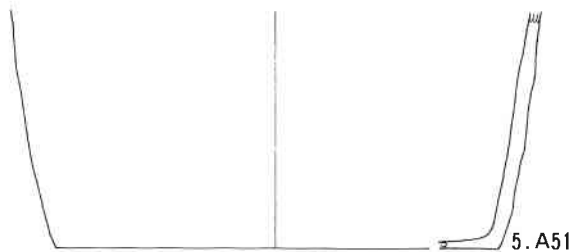
4.A42



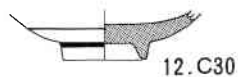
10.A61



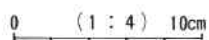
11.A55表土



5.A51



12.C30



第9図 遺物実測図

第5章 む す び

これまで、今回の調査で検出された遺構・遺物を説明してきたが、最後に若干の補足を行い、まとめとしたい。

塩川芝宮地籍の稲荷神社周辺は70×40m程度の範囲の単郭の砦といわれ、土塁の痕跡もある。県営圃場整備事業に伴う昭和63年の発掘調査では、砦西側の水田において幅2.2～2.45m、深さ17～20cmの空堀を確認し、堀の中から内耳鍋が出土した。

今回の調査で試掘トレンチを掘削した結果、2号トレンチを掘削した稲荷神社北側の水田と畑からは遺構・遺物とも確認されなかった。また、今回の調査区と北側の畑とは42～49cmの比高差があり、今回の調査区は北側の畑や水田よりも一段高い位置にある。このことから砦の範囲は今回の調査区を含めた南北55m×東西40mの範囲に限定されると思われる。

また、1号トレンチの土層断面の状態からみて今回の調査区の土塁は後世の耕作によって削平されてしまったと考えられる。

遺構は土壇・ピット・列石が検出されているが、いずれも規則性が確認されず、その性格は不明である。遺物の総量は破片の状態で整理用コンテナ2箱程度であり、遺構に伴うものは少ない。時期幅は中世末期から近世まで及んでいる。中でも内耳鍋はまとまった資料が出土している。口辺部の形態から16世紀前葉～17世紀前葉に位置するものと思われる。陶磁器については、小破片が多く、全体の形態がわからないため時期を特定する資料とはなりえないが、大窯期の丸皿が出土している。

芝宮砦は、天正13年（1585）に徳川氏が真田氏を攻めた第一次上田合戦の際に徳川氏によって造られた砦であるといわれている。当時徳川軍は八重原に本陣を置き、市の町砦や尾野山城にいた真田氏と対峙しており、芝宮砦は陣場城の東方防備のために造られたのではないかとされている。このため徳川軍が去った後は砦としては利用されず、廃棄された可能性が高いと思われる。このことは出土した内耳鍋や陶磁器の年代が16世紀～17世紀に位置することからも示唆される。

以上、今回の調査の成果について述べてみたが、本調査の成果が地域の歴史解明に役立てば幸いである。最後に、本調査にご指導、ご協力をいただいた方々に心から感謝の意を表したい。

引用参考文献

- 長野県埋蔵文化財センター 1990 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4－松本市内その1－総論編』
- 長野県埋蔵文化財センター 1993 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書12－東筑摩郡坂北村・麻績村内一』
- 丸子町教育委員会 1982 『丸子町地域開発史』
- 丸子町誌刊行会 1992 『丸子町誌歴史編』

版 図



1. 遺跡全景 (西から)



2. 発掘調査区全景



1. トレンチ掘削



2. 航空写真撮影



1. 試掘作業



2. 発掘作業



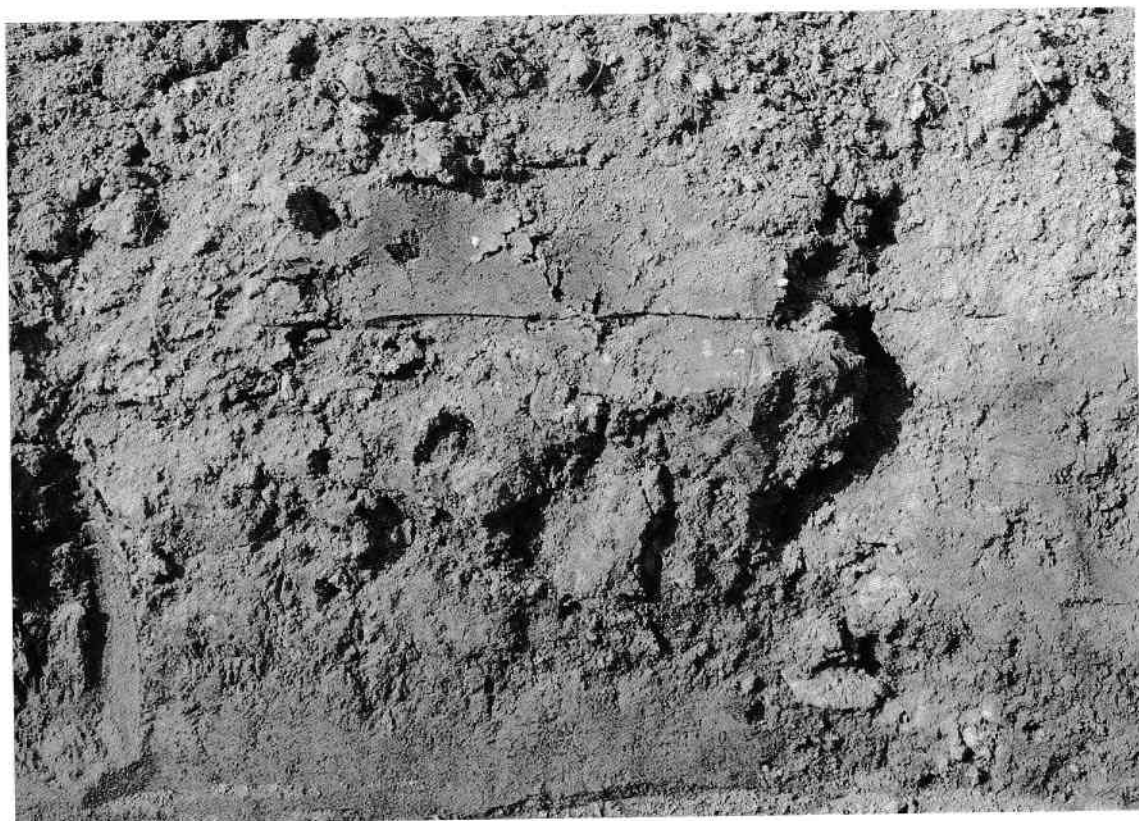
1. 1号トレンチ



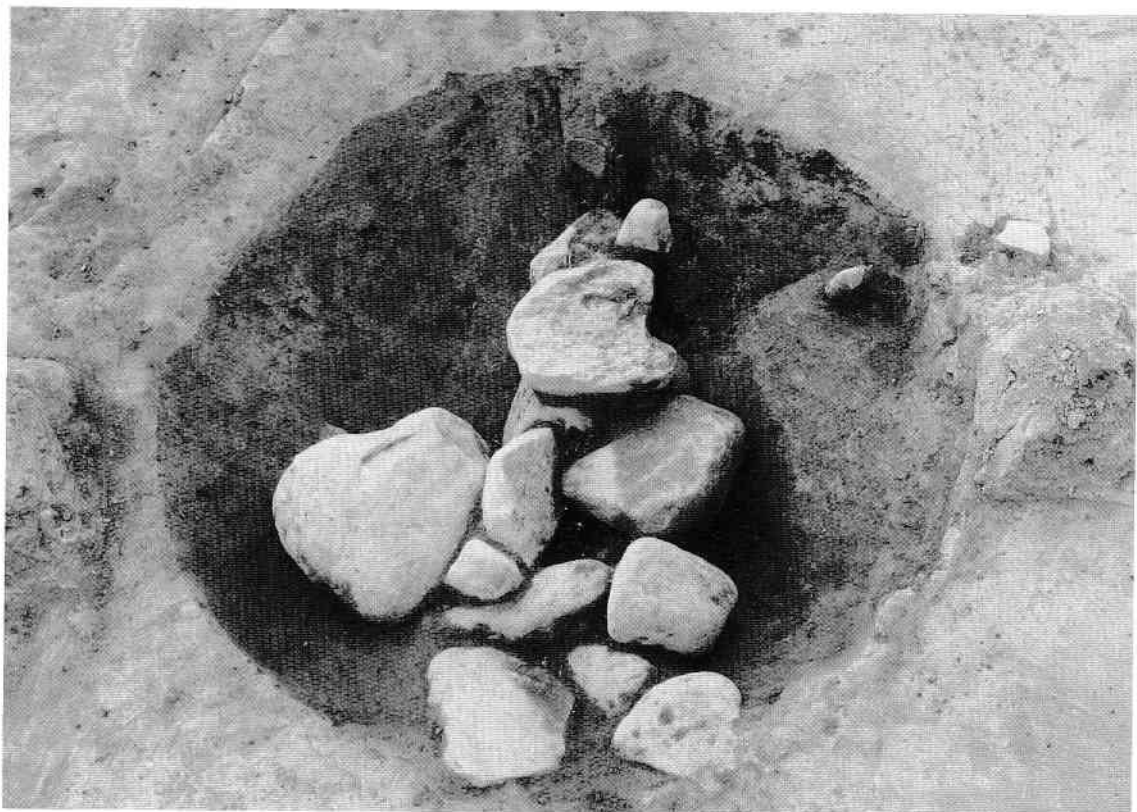
2. 同土層断面



1. 2号トレンチ



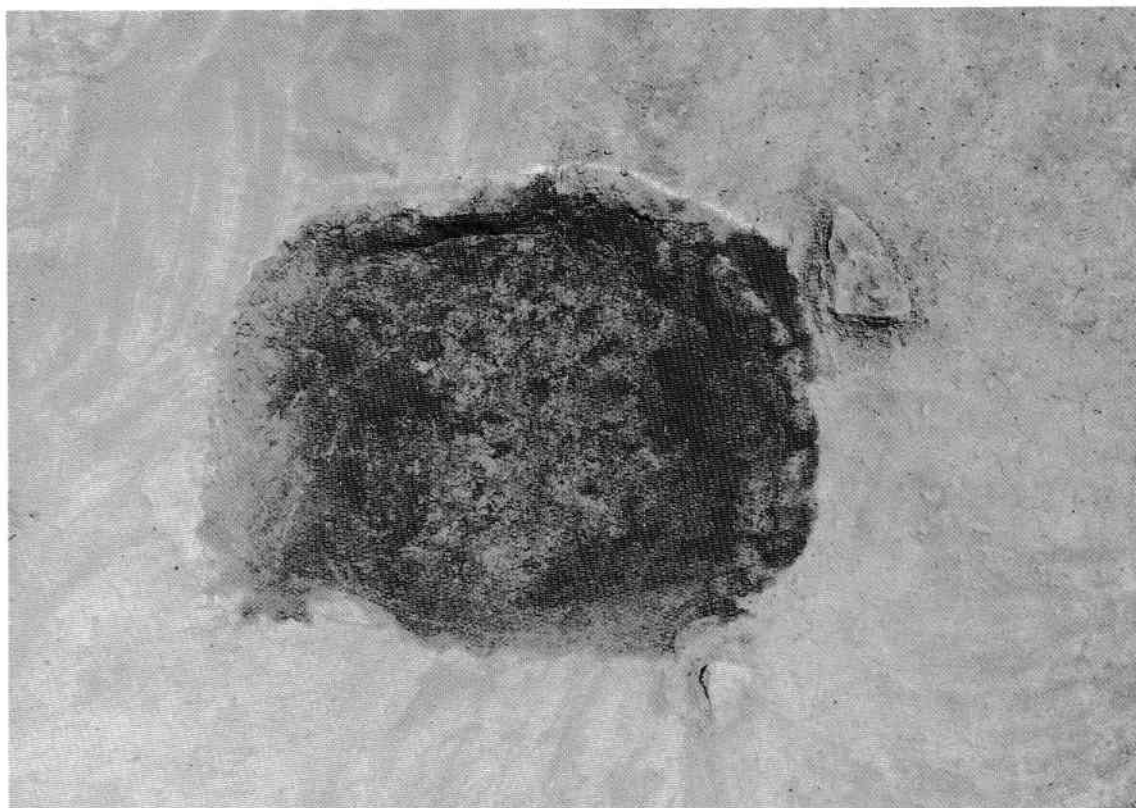
2. 同土層断面



1. 1号土壙磔出土状态



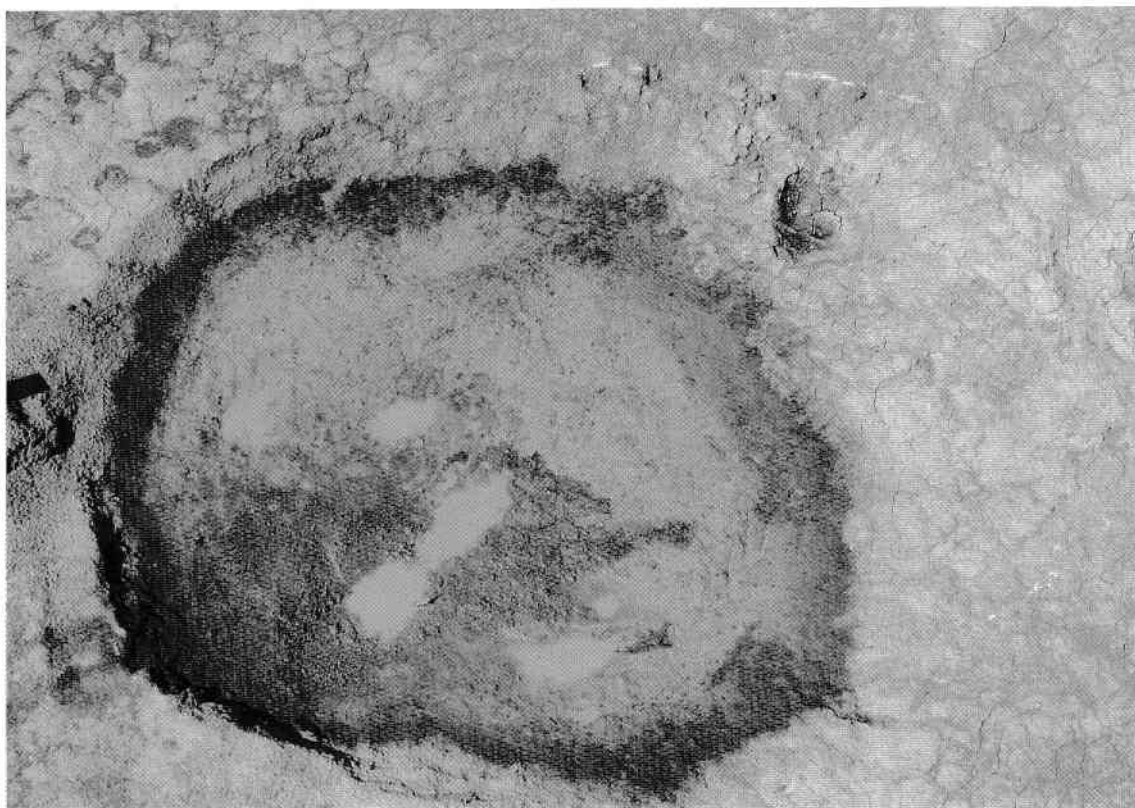
2. 1号土壙



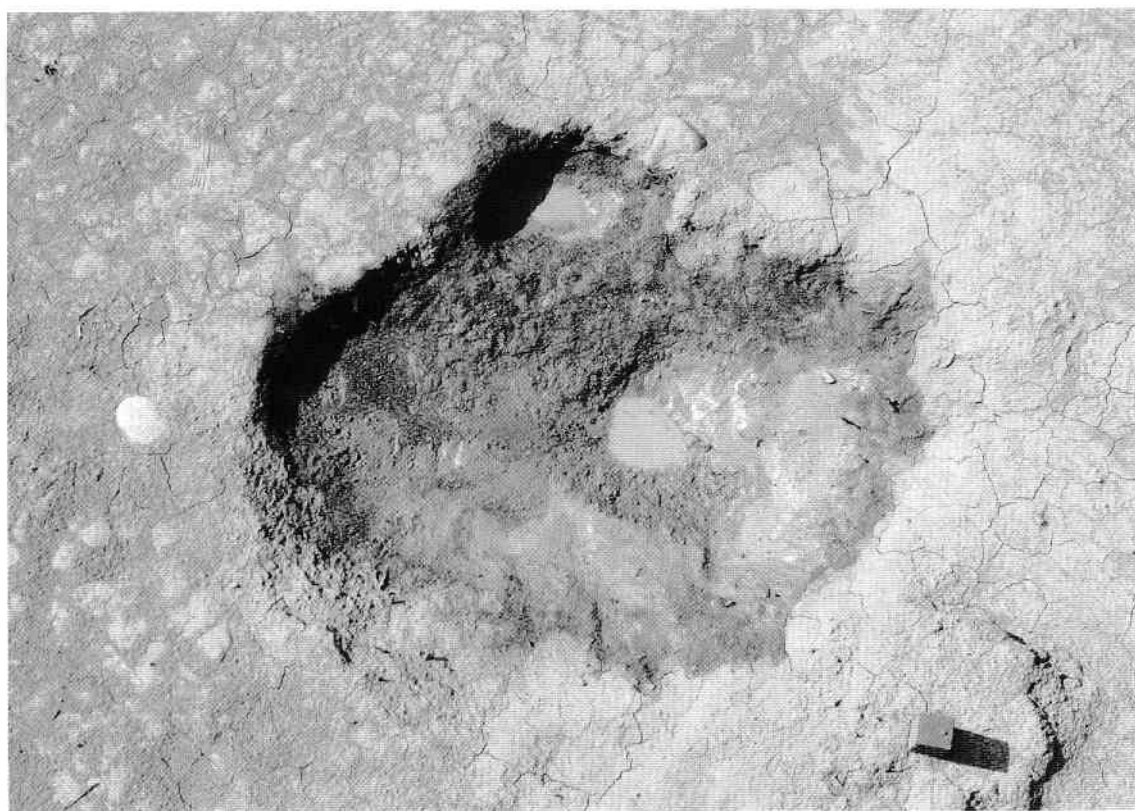
1. 2号土壤



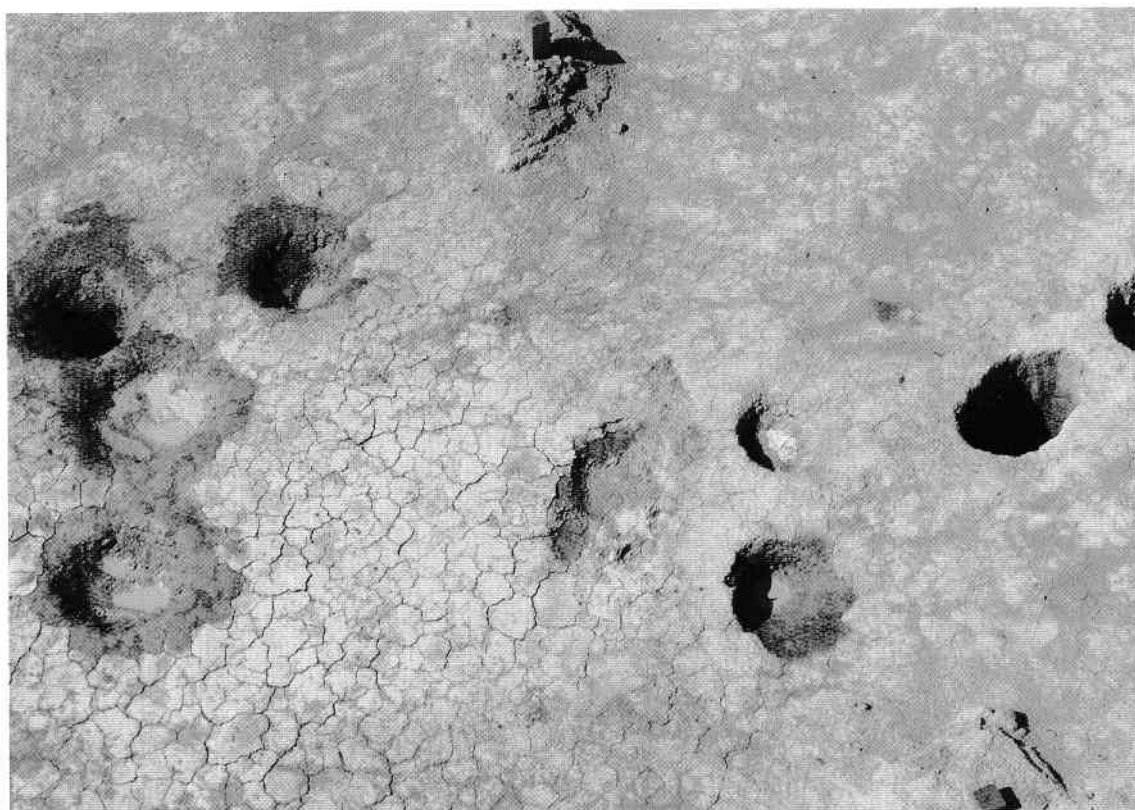
2. 3号土壤



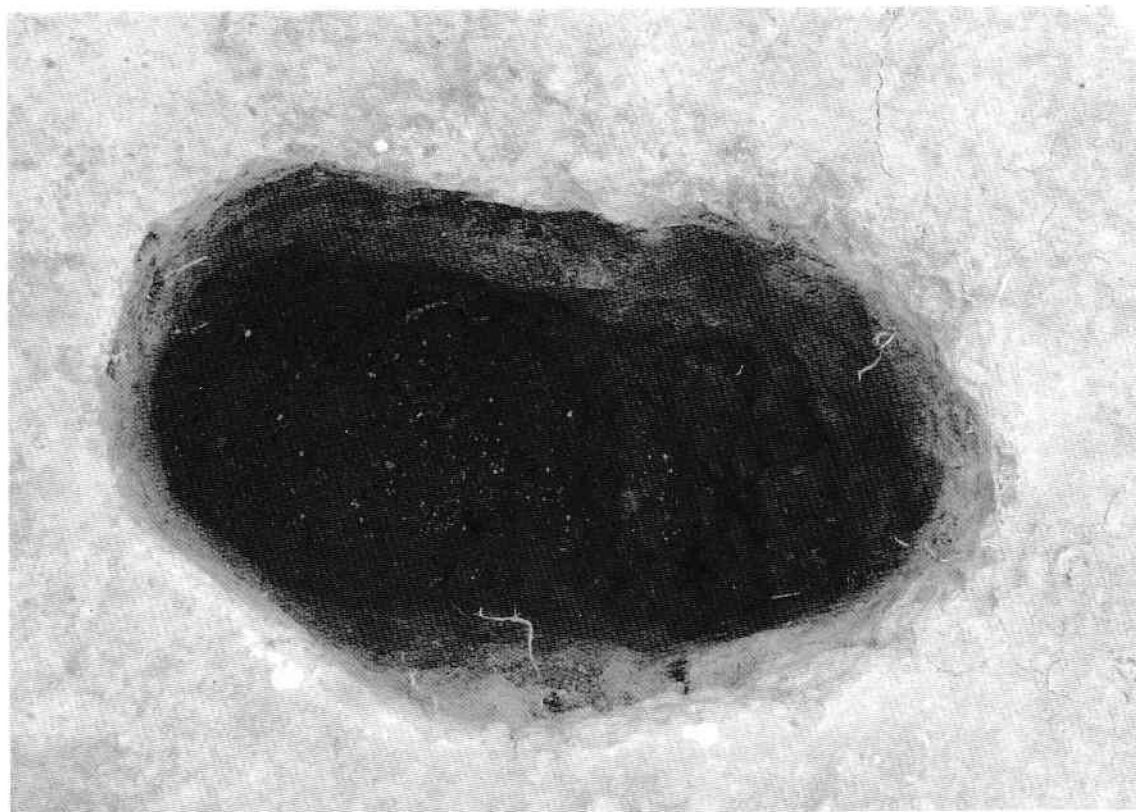
1. 4号土壤



2. 5号土壤



1. ピット群



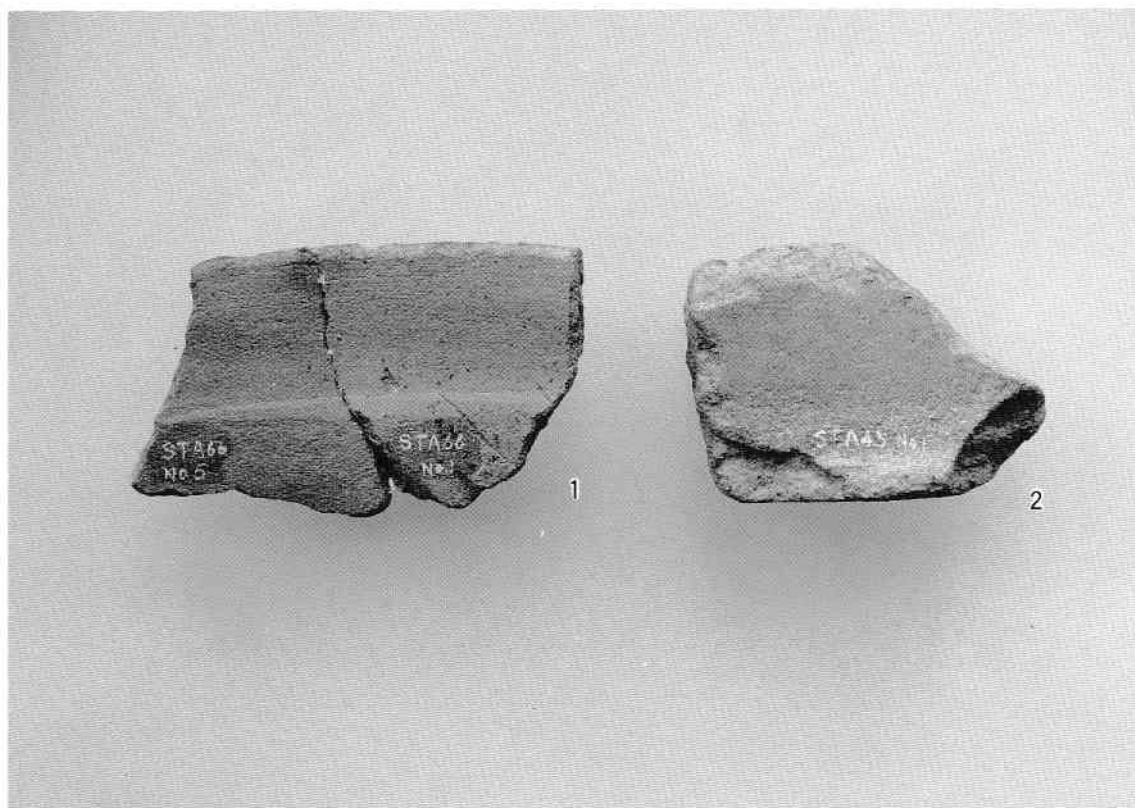
2. 24号ピット



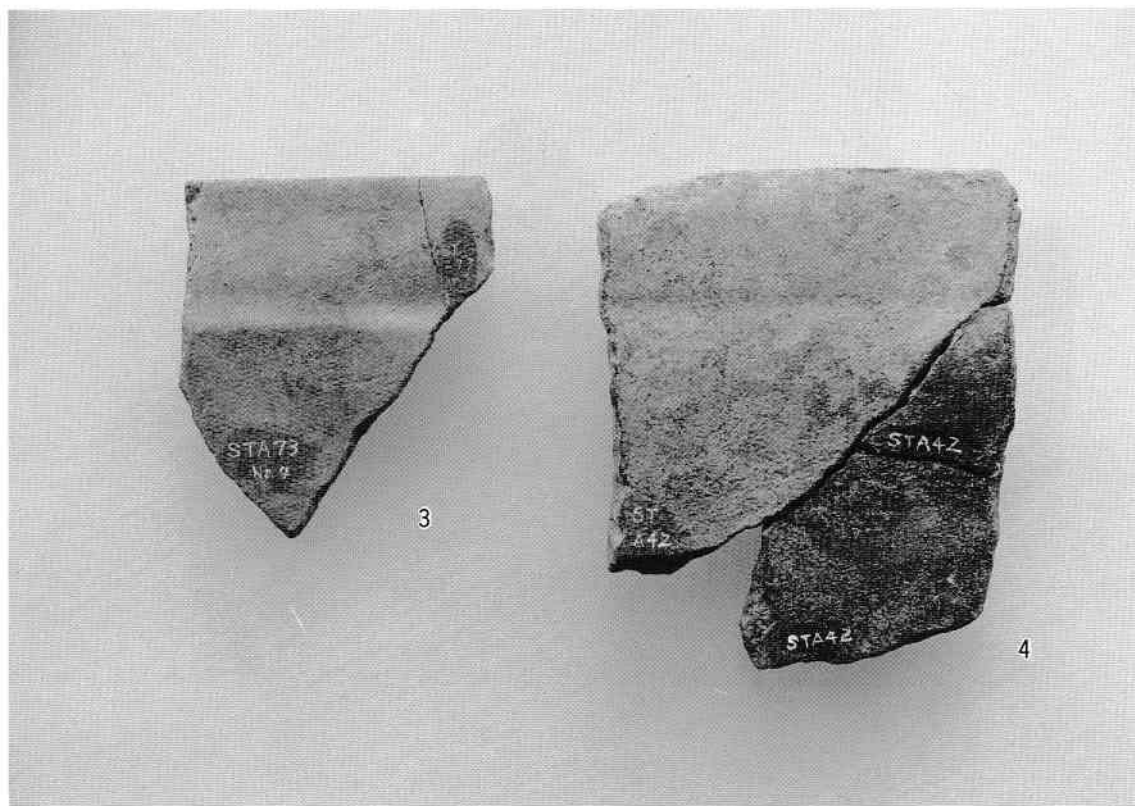
1. 列石



2. 遺物出土狀態



1. 内耳鍋(内面)

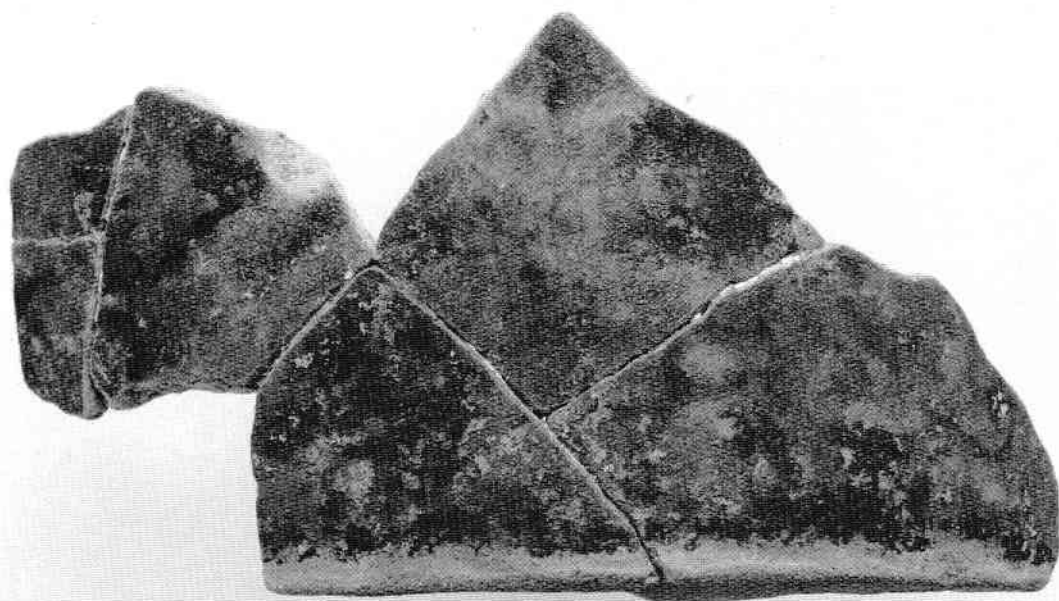


2. 内耳鍋(内面)



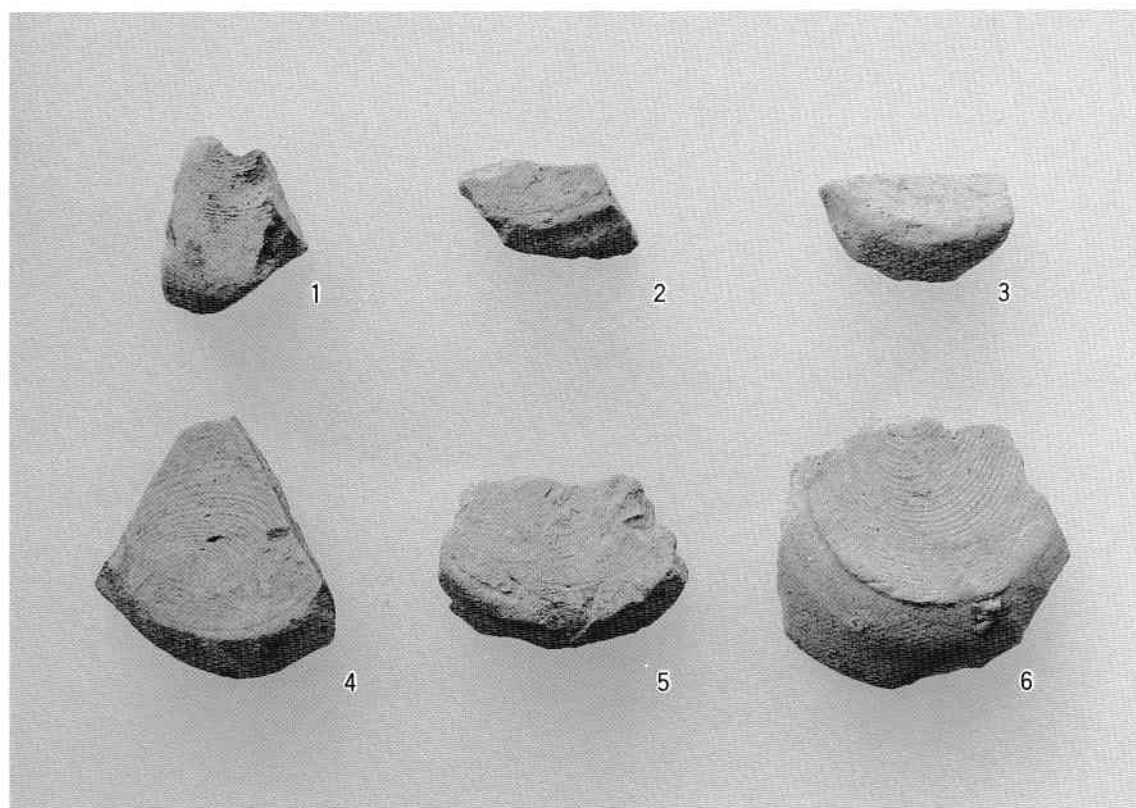
5

1. 内耳鍋(底部内面)

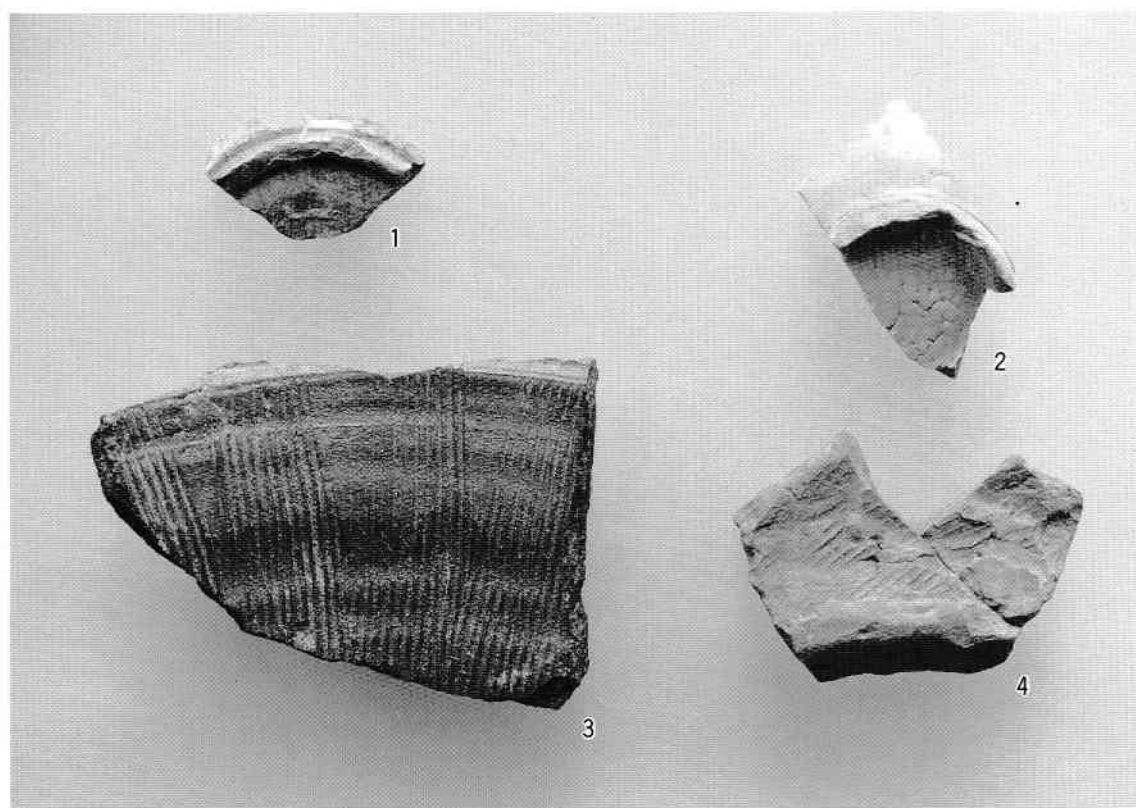


6

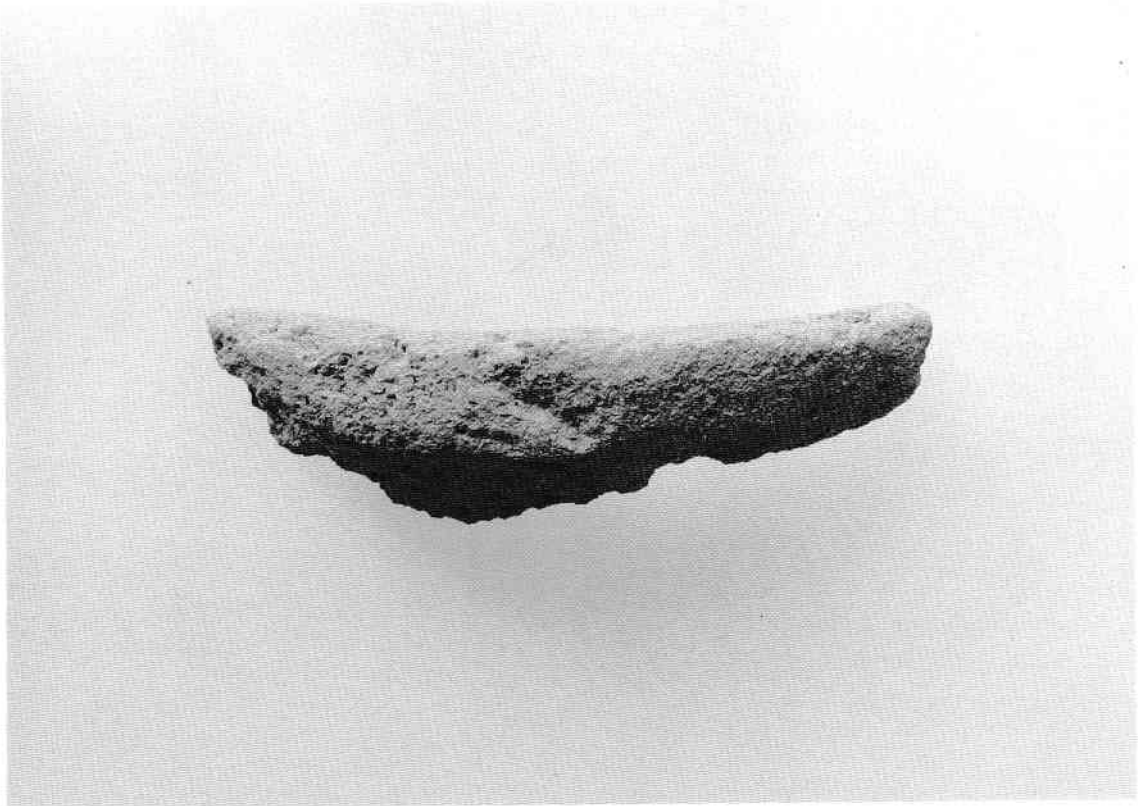
2. 内耳鍋



1. 土器皿



2. 陶磁器



1. 石鉞



2. 磨石・凹石・砥石

芝 宮 砦 跡

—長野県小県郡丸子町芝宮砦跡発掘調査報告書—

平成9年3月17日 印刷・発行

編 集 丸子町芝宮砦埋蔵文化財発掘調査団

発 行 丸 子 町 教 育 委 員 会

〒386-04 長野県小県郡丸子町上丸子1612

TEL (0268) 42-3147

印 刷 有 限 会 社 大 和 印 刷

〒386-04 長野県小県郡丸子町上丸子901

TEL (0268) 42-2597
